

令和6年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 第3回入退院時連携推進部会を開催しました

- 1月15日(水)に、第3回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は、部会メンバー8人、事務局4人、上越地域在宅医療推進センター1人でした。
- 医療・介護の連携に向け共通課題のある急変時対応部会と合同研修会を計画。開催に向けての意見交換を行いました。



◆『医療と介護の連携に関する研修会』 ～切れ目のない医療と介護の提供体制を 構築するために～

日時:2月12日(水)14:00~16:00

開催方法:Zoomによるオンライン

対象:ケアマネジャー、訪問看護ステーション、
病院の入退院支援に関わる職員

- ・医療側・介護側の双方が、お互いの役割を理解していないことが連携の支障となっていると考え、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、入退院時や急変時に支援に関わる職員が相互の役割を理解することを目的として実施する。

【研修会に向けた意見交換】

- 初めに、急変時対応部会で検討してきた現状と課題を共有。その後、研修会についての意見交換を行った。
- ・病院側は入院した時から退院支援が始まっていると思っていたが、在宅側は同じように考えていないとわかった。

- ・入院中に意向が変わって、在宅復帰が望めないとわかるとケアマネジャーは手を引いてしまう。今までの在宅生活がわかるからこそ一緒に相談してほしいと思う。
- ・病院と連携を図る際、部署や役割が多くどこに連絡をしたらよいかわからなくなっている。どこに連絡をしても必要な部署に繋がってもらえることが、お互い安心して連携できることにつながるのではないか。
- ・入院時に在宅での身体状況は伝えても生活状況まで伝えることは少ないため、病院側も在宅生活が想像しにくい。先々を見据えた連携が必要。
- ・退院時に「状態変わりなし」と情報をもって訪問すると、入院前と大きく変わっているケースがある。お互いの認識のズレのすり合わせができるとういと思う。
- ・困難ケースほど、相談してほしいのに相談がない。相談なしにサービスが始まってしまい、対応できない場合もある。

⇒部会内での意見を踏まえ、今後も定期的に医療側・介護側の双方が意見交換できる場をつくることで、連携を推進していく必要性があることを再確認した。

【今後の取組内容】

- 医療と介護の意見交換会の定期的開催に向け、体制等について検討する。(効果的な開催に向けた具体策)
- 部会の取組について定着を図るための意見交換を行う。

※次回:令和7年6月頃の予定